

水俣通信

VOL.2 NO.3
毎月1回・10日発行
定価200円

現代狂言

嗚呼皇室典範御夜継合戦

現代社会・文化研究所

2

御経野の子守唄

9

投稿

信州より編集部へ

志間耕治

17

詩

永登浦散調

梁性佑

18

ペトリカメラ保育園訪問記

高橋悠治

20

〈朝鮮語〉の学び方Ⅲ

声にひびかせると見えてくる〈ことば〉の世界

李銀子

25

サトウキビ畑の即興劇

堀田正彦

29

現代狂言

嗚呼皇室典範御夜継合戦

(げんだいばるでい・ああこうしつてんぱんおよつきがつせん)

現代社会・文化研究所

登場人物

ナレーター
おはやし
天皇
大平
皇太子
浩宮
中曾根
美智子
経団連会長
労働組合委員長
民衆

ナレーター(女性、テレビレポーター風スタイル)、ギターを持つおはやしと二人、舞台下手前に立っている。
舞台上、誰もいない。しだいに明るくなる。
ギター鳴る。(おはやし、「ユメカシラ」を歌う)

ナレーター ある日ある日のごとおました。天皇陛下サマが網を持って、いつものように狩りにでかけはったのだす。

天皇(探険家スタイル)、捕虫網を持って、上手から登場。

ナレーター 愛妻家でおます陛下サマは、腰痛で倒れはった皇后サマを元気にしてやろうおもうて、新鮮な獲物を夢中になって、あちらこちらと捕虫網をふりおろしてつかまえました。けどポーズを崩さんと、つかまえたはったのです。

天皇 アイヌはどうにとらえてカゴのなか。昭和二十二年には各地を回って、人民をつかまえてもった。朕が国体をまもったんや。勤務評定で教師もつかまえた。あ、そうそう、昭和四十年六月二十二日には日韓条約で韓国もつかまえたぞ。高度成長で労働者もつかまえ、農村もつかまえ、漁村もつかまえ……昭和四十五年も忘れられへん、あの時は学生もつかまえたさかい、それに沖繩も朕のもとに帰ってきよった。一辺戦争で負けたけど、なあと、

朕は不死身やわい。新しい大東亜共栄圏ができよる。さあ、次は何をつかまえたろうか。

ナレーター そんな時だした。ご高齢であつたさかいやろ、巖(イワオ)の石につまづいて、若ですべてひっくり返ってしまいはりました。陛下サマは腰が痛い痛いというて、捕虫網をかついで、皇居へ帰って行きよった。

天皇、腰をさすりながら、上手へ退場。

ナレーター ところは突然変わって、皇居の中のことだす。

ギター、鳴りひびく。

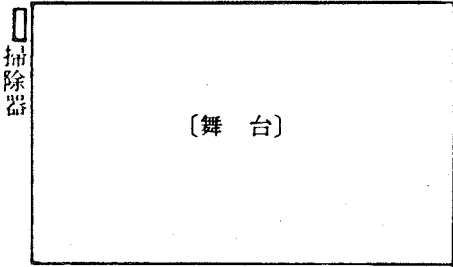
大平首相(三つ揃)、下手から登場。

ナレーター 大平丸の巡航が思わしくなく衆議院の総選挙に負けて危なかつたのでつけど、なにかひとつ事を起こさなあかんと思案しもつて、大平はんが陛下サマを捜しとおつたのですわ。

大平 うーん、どこかで戦争でもしよらんかいな、やりよらんか。つたらわが大平丸も沈没や。アメリカもそうそう頼りになれへんし、韓国も地響きしとおるし。まあ、あそこは大丈夫やと思うけど、反日運動も激しくなつてきとおるし、慎重に事を運ばなあかんや。

舞台奥の壁
竹矢来をセット
成田空港を想定

び器具
及駢
机実



[舞台]

下手

上手

ナレーター
おはやし

[客席]

大平、舞台中央に立つて思案気な様子。そこへ皇太子(背広)、ニコニコと登場。そして、にこやかに大平に声をかける。

皇太子 あれ、大平は、どないしたんでつか?

大平 いや、これは皇太子殿下、ハアハアホーホーヒーヒー

皇太子 ちようどええ、聞きたいことあるんや。

大平 靖国法案でつか。

皇太子 うん、それもあるけど、成田のことや。成田空港は第二期工事もでて完成するんやろな。安全になった成田から飛んでヨーロッパやアメリカに行きたいんや。はよ天皇になって、世界を股にかけな。それには絶対安全な成田が必要なんや。

大平 大丈夫だす。成田完成は時間の問題ですさかい。

ギター、大きく響き、皇太子と大平の会話、小さくなる。

ナレーター 波乱万丈、疾風怒濤、驚天動地の陰謀渦まく皇居に、じわじわと押し寄せる迅雷の影がひとつ。そうだす、ほんまにそれは浩宮サマの姿でおました。

浩宮(科学実験用白衣)、皇太子と大平の話を盗み聞きするよう
に上手から登場。二人、浩宮に気づく。

皇太子 どないしたんや浩宮?

浩宮 うん、それがねパパ、おじいちゃんが倒れよつたで。

皇太子 なんやて……? そうか、そら、いよいよわいの時代やな。
浩宮 そうだす、あんたはんの時代だす。

皇太子、舞台中央に堂々と立ち、右手を高くかかげる。

大平 で、陛下のご容態は?

浩宮 年が年やさかいな。ねえ、パパ。

皇太子 うん、長すぎたんや、あの人の時代は……

大平 皇太子殿下、それでは早速、元号を変える手はずをとのえまひよ。次の元号も決まってるさかい、国会へ行つてまひよ。その方が急務でつかい。

皇太子 もちろん、その通りや。大平は、そつちは頼んまつせ。

大平 よつしやよつしや。(手をあげて振る)

大平、下手へ退場。

ナレーター そうだ、皇太子サマははよ天皇になりとうてなりとうて。ボンクラ皇太子といわれ、結婚式では石を、沖繩では火炎ピンを投げつけられて、評判がよくなかったさかい、皇太子サマは平静さを装とつたど、忿懣やるかたなかつたんや。けど、時は急変を告げ、新しい天下の到来を、皇太子サマは、今、つかみかけはつたんだす。

皇太子 親父は二十五で天皇になりよつたのに、わいはもう四十七

やないけ。このままでは浩宮が天皇になってしまひよ……

皇太子、前へ進み出て、ゆつくり歩く。

皇太子 浩宮、掃除器を持って来なはれ。

浩宮 へーい。

浩宮、舞台奥から掃除器を運びだす。

皇太子 ええか、浩宮。これからわいの人民虫のとり方を教えたる。親父は捕虫網でやりよつたけど、わいはちゃうで。よくみとけよ。(掃除器を手に持つ)方法その一、一般民衆虫は、この大きいやつで(畳・床用の幅の広い吸口を掃除器につける)いっぺんに吸いとつてまう。(舞台の上を掃除する)方法その二、隅にかくれて不穏な策動をたくらむ虫けらどもは、これで(刀型の吸口をとりつける)しらみつぶしに吸いとつたるのや。

浩宮、意地悪そうにそれを見ている。

皇太子 (掃除器を置いて)息子よ、パパは偉い人なんやぞ。韓国に別荘を買うたる。東南アジアにはプールをつくつたる。これからはパパの時代や。パパがなんでもやつたる。

浩宮 ちゃん!

ギター、派手に鳴る。

皇太子、なおも威勢のいいポーズをとっている。

浩宮、皇太子から離れ、上手に立ち、仕方がない奴だという表情で見ている。

中曽根(軍服)、上手からそつと浩宮に近づき、そして皇太子に話しかける。

中曽根 陛下が亡くならはつたそうで……

皇太子 いや、まだやけど、またどうしてそんなにはよう知つとんのや?

中曽根 なにしろ情報が早いでさかいな、先のことまで判りま。

殿下の掃除器のことまで耳に入つとりまつせ。

皇太子 まだ秘密やんけ、あれは。

中曽根 それは分つとりま。情報が入るのは早いでつけど、こちらのことはひとつももらしまへん。当然だつせ。それにしても掃除器では音が大きすぎまん。これからは秘密裡にすべての人民をつかまへんと。その準備は完璧に整つとりまつせ。

皇太子 すぐにでも狩りはできるのけ?

中曽根 もちろんだ。

皇太子、浩宮が盗み聞きしているのに気づく。

皇太子 浩宮、おとなの話やさかい、あつちへ行つときなはれ。

浩宮、再び上手へ。

同時に大平、下手より登場。

大平 こらこら中曽根はん、情報がはよおまんな。

中曽根 ハハハハ、簡単だすわ。

大平 ちょっと失礼しまっせ、皇太子殿下と話がおましてな。

中曽根 どうぞ、どうぞ。どうぞせすぐ私の耳に入りまっけど。

中曽根、浩宮に近づく。

大平と皇太子はひそひそと下手で話しだす。

大平 今、国会に靖国法案をだしてきました。例の打ち合わせ通りだす。

皇太子 (うなづく)

舞台、上手(浩宮と中曽根)と下手(皇太子と大平)の二つにわかれる。照明、両派を交互に照らす。

ギター、強烈に鳴りわたる。

ナレーター さてさて、皇居内は複雑怪奇な色に染まり、ナレーターこと私どもも、陰険に展開する芝居に目をまわす思い。あれ？浩宮くんが何やら実験器具を取りださりました。そうだす。浩宮くんは実は、皇太子サマよりも本当は自分が天皇になる番だと思とったのですわ。それで、それはどうなりまんねやろ……？

美智子 殿下、できましたわ。日清製粉特製の粉でこねたパンです。これさえあれば、ニューファミリアのおひとらの心は完全に私たちのものでっせ。

美智子、こねた粉を皇太子の顔に塗りたくる。
ギター、激しくなる。

ナレーター この混乱、この奇怪！(絶叫する)

皇太子 天皇になつてもうたら、美智子、日本はこのわいに任してくれ。

美智子 あんた、すてき！

美智子、皇太子に抱きついて、頬にキスをする。

浩宮 天皇にはぼくがなるんや。このメストハサミで人民の腹をひき裂いたる。最新の化学兵器を使って、失敗なんてせえへんわい。それに自衛隊がついとる！

皇太子 いや、わしが平和の象徴たる天皇になって、大東亜共栄圏を平和スマイルで強化するんや。

浩宮 いや、わいがるんやわい。

皇太子 いや、わしや。

ナレーター 危機一髪！ 風前のともしび！アギヤアギヤ！

浩宮、実験台を前に出す。いろいろな実験器具をとりだす。その間、皇太子と大平は密談中。

浩宮 中曽根はん、わいおじいや親父とは根本的に違いまっせ。

網で獲ったり、掃除器を使ったりなんかせへん。そんなではらちがあかへん。これからは中性子爆弾や。これを見てみ、このピーカーひとつで人民なんか一発で終りや、全部支配できるで。

中曽根 中性子爆弾とJCI Aのすき間のない情報網があつたら、浩宮サマの意のままですわ。ほんまにこれからはミサイルとコンピュータの時代で……

浩宮 そうやんけ、そやからわいに任せればええんだ。

舞台、上手・下手で互いの密談をゼスチャーでする。

ギター、ロマンチックに鳴りはじめる。

ナレーター そんな時でした。美智子サマが、それはそれはうつくしくしてやって来いやりました。まるで皇居に咲くパンの花だすわ。

美智子(胸が大きくあいたドレス、胸毛がのぞいている。頭に派手なターバン)、上手より浩宮らの背後を通して登場。ボールを持ち、パン粉をこねている。

突如、天皇が舞台奥から中央へ登場。

天皇 死んどらへん、死んどらへん、朕はまだ死んどらへんぞ。

ギター、ピタリと鳴り止む。

天皇以外の全員、態度豹変する。

大平 これはこれは陛下、お体はいかがでつか？

皇太子 おとうはんの元気なお姿を見て安心しました。またはよ、狩りにでかけなはれ。

中曽根 たいしたことない、との情報がありましたんで、安心しておりました。

浩宮 おじいちゃん、長生きしてや。日本はおじいちゃんのもんやさかい。

天皇 しいていうたらな、柳に雪折れなしのことわざのように、自然のまま、あまり無理せんことが大事なんや。皇太子みたいにマイホームの真似してもあかん。浩宮みたいに、ことをあらだててもあかんのや。朕みたいに、自然に、自然にふるまうのが一番や。

ナレーター ところが偶然というものはおそろしいもんでな、ちようどそこへ、経団連会長と労働組合の委員長が見舞いにきよったのです。これをまさしく偶然の一致だすわ。

経団連会長（高級三つ揃）と労働組合委員長（ジャンパー姿）、上手・下手から登場し、握手しながらぐりと入れかわる。会長、浩宮側に立ち、委員長は皇太子側に立つ。突然、音楽「黄金の腕」流れる。両派、緊迫感に満ち、にじり寄る。大平、双方の間に割って入る。

大平 まあまあ、落ち着きなはれ、落ち着きなはれ。成田空港完成もせまっています。靖国法案の成立ももうすぐです。

天皇 そうや、成田空港の完成や。靖国法案も成立や。

舞台奥の壁の草が落ち、成田空港となる。

大平、成田空港の完成宣言を行なおうとする。

大平 それでは、ただいまより、成田空港を完成させ……

大平の完成宣言の途中で、客席から、「成田空港反対」「靖国法案阻止」のプラカードを持った民衆多数があらわれ、反対を叫びながら、舞台へかけあがる。

民衆、大平、中曽根ら全員を袋叩きにする。

ナレーターもまきこまれる。

天皇、うまくのがれて、「朕はまだまだ生きてるぞ」と叫ぶ。

——溶暗、幕

労働情報 日韓特別号

韓国民衆蜂起と日本労働者の課題
内容①対韓侵略下の労働者連帯の課題、全金枚岡闘争他/山原克二、梅林宏道他
②前進する韓国民主化闘争/金景柱、和田春樹、東海林勤、花崎泉平
③連帯焦眉の課題/神奈川民衆会議、桑原重夫他
④自主的平和統一とわれわれ/山川曉夫、梶谷善久他（一部五〇〇円）

『労働情報』編集委員会/東京都港区新橋5-13-12/電話03(433)0375/毎月1日、15日発行/1部150円、定期購読年間送料共4200円

水牛歌集 定価300円 送料140円

日本とアジアのあたらしい歌

一步もひくな/この詩は棄てても/カオルの詩/労働者/白いハト/声/朝日の色が
変わり/雨をまつイネ/めしは天/管制塔の歌/機動隊かんがえろ/母の歌/不屈の
民/よねの歌/翻身/米のうた/人と水牛/プリバ/果しない波を渡るための歌

三里塚・野遊びの歌

スライド(54コマ)とテープ14分
貸出料(送料とも)3500円

原画 石毛博道 文 島 寛 征
音楽 高橋悠治 朗読 斉藤晴彦
写真 大塚文夫 演出 龍村 仁
制作 鎌田 慧

申込は水牛編集委員会まで
郵便振替・東京4-91792

御経野の子守唄

奈良の北川進氏にきく

聞き手 太田恭治



北川 そうそう。手ははれてきてね。根性です。(笑)
太田 自分のまわりの状況を知ってたんで、よけいガツンときた。
北川 うん、絶対そうすわ。僕より一つ年上の子が中心になって、
僕の村(奈良の被差別部落小林)で青年部つくろうとしてね。僕が
高一のときに「こい」いわれてわからんりに行ってたでしょう。
だから岡林の歌よけい感じたんですよ。

太田 みんなたいがいあの歌はくぐってるんやね。

北川 それから徐々に指も動くようになってきたんで、高三の時に
グループつくったんです。卒業して、浪人してる時にまだやって、
そのときはちようど、八木一男さん(前衆議院議員・部落解放同盟
中央委員・社会党)の運転手してたんです。

太田 運動もしてたわけやね。

北川 そうです。それと奈良労音のコンサートで東京のグループの

太田 ギターを弾くようになったのはいつから。
北川 高校一年の時。知ってる人が岡林信康の歌をうたっていて。
太田 ああ「手紙」とか「チューリップのアップリケ」とか。
北川 そうです。ガツンときてね、やりたい、いうんで安物のギタ
ー買ってきて、ギターいうても箱かギターかわからんようなやつ。
そればかりです、二年ぐらいやね。(笑)
太田 コード習うて、それだけ練習。

前歌でだしてもうたりしてたんです。

太田 オリジナルもあつたわけ。

北川 そこへいくまでにやめました。そのグループは、労音の十周年の式典が奈良ホテルであつてね、そこで奈良労音が採譜した「紙すき唄」(吉野)をうたいいうことになりました。

太田 奈良労音はそういう活動してはるんやね。

(奈良労音には理想として採譜キャラバンをつくらうという話が四年前からある。奈良は宝庫だから。だけど実際会社休んで泊りこんでやらないとできない仕事なので、困難が多い。しかし、そういう提案がたまっているのだから、バネにすめられる。それが「紙すき唄」であつた。奈良労音の吉野の活動家が採譜して、後藤悦次郎さんがひろうした。)

北川 後藤さんのテープをきいて、僕楽譜も読ん生まれへんしね、耳でおぼえて、グループにもつてかえつて、女の子の声なんかいれてやりましたん。だから「紙すき」ってどんなんかぜんぜん知らんと最初は歌うとつたんです。でも去年の二月に現地へ行って、寒い時期です、川の中に入ったりしてね。それから仕事みせてもらったして、やっとわかつてきた。

なんの因果で 紙すきならた

こんなおとろし 商売をよ

見ては楽そで すいては地獄よ

お寺奉公か 紙すきかよ

こんな詞です。それに、

私や紙すき 汝イカダ乗りよ

同じ水職 つめたかろよ

紙すきはつめたい川でその原料をほぐす仕事やるんですけど、そのとき沖に吉野杉をはこぶイカダ乗りがやってくる。それに声かけるような歌ですね。

太田 イカダ流し歌もあるわけ。

北川 イカダ流しは仕事としてはもうない。今ではテープに歌だけのこされています。

紙すきも今は観光化しててね。

太田 こういう奈良労音の地域に根ざした活動があつて、北川君の活動のバネになつていったわけ。それと同時に部落解放同盟の県連の仕事もしてたわけやね。あの御経野の子守唄との出会いというのはそれから。

北川 御経野支部の中村ハルさんから、全国婦人集会で中村さんが発表せんらん、何を発表するか考えていて、うちの支部にはこんな歌があるんや、そやから、支部にきて採譜してくれへんか、いわれたんです。

仕事おわつてからテープレコーダもつて御経野へ行つたのがはじめです。

(御経野支部というのは、奈良県天理市御経野町にある、被差別部

落の部落解放同盟奈良県連の支部である。明治後期から大正初期、百三十戸—現在三百八十戸—あつて、自作農が二、三軒、小作農が四、五軒といつたところだつた。この苦しい生活のなかでうたわれた子守唄が御経野の子守唄である。)

太田 中村さんたちがうたつたのかな。

北川 中村さんはきかされたらしい。

太田 ああ、おぶさる側。

北川 そうです。ですからかなり前です。中村さんは六十歳ぐらいいかなあ。

太田 そうすると七十歳位以上の人かな、この歌をうたつたのは。

それではこの歌の背景みたいなもんは?

北川 ここにそれを説明できるような資料があります。これは、昨年の奈良同和教育研究会の時に発表したもので、僕がうたつて、婦人部の人たちがジヨリ(草履)作りをして、ナレーションとちよつとした寸劇を組み合わせてつくつたものです。

太田 へえ、だれがつくつたの。

北川 伊藤駿之介さんといつて天理大学の演劇の先生です。

『御経野の子守唄』台本

伊原駿之介編

ギターのソロ(歌なし) B・G

ナレーション 2

ねんねしてくれ 寝た子は可愛い

起きて泣く子は 面憎い

面が憎けりや たんばに棄てろ

起きて出てくりや、また棄てよ

雨よ降れ降れ 川に水溜まれ

この子流して 花咲かす

私やめしたき 妹は子守り

おかんわら打ち 草履作り

足が冷みたい 足袋買うておくれ

兄貴やもうけたら 買うてはかす

兄貴やもうけるまで 死んだらどうする

お前死んだら 足袋やいらぬ

私やこの家の 濁りの水や

私やいなけりや 後はすむ
 儂が死んだら 誰が泣いてくりよな
 墓でカラスが泣くばかり
 お前言うの鳥 わしや聞くの鳥
 山でカラスが啼くの鳥
 いたら見てこい 名古屋の城は
 金のシヤチホコ 雨ざらし

ナレーション1 この歌は、今ではほんとうに、部落の中年以上の
 人しか知られていませんが、しかしたんなる子守唄ではないの
 です。

お聞きになっておわかりと思いますが、子守唄の中に「ねぬ子
 の面憎い」という表現の子守唄の歌詞は、他の地方にもあります。
 たぶん、それは、子守りの娘が、なかなか寝つかない「主人の子」
 を早くねかして、一刻でも早く自分も休みたい……という気持ち
 を、こうした子守唄にしたのでしょう。

でも……「御経野の子守唄」は、その歌詞の中に「面が憎けり
 やたんぼに棄てろ」という残酷な一節があり、起きて出てくりや
 また棄てよ」という苛酷な表現があります。これは子守唄として
 うたわれたものでありながら、「この部落」の「差別の歴史」が、
 生活の歌である子守唄の中に盛りこまれていることを如実に物語
 るものなのです。

この子守唄の中には、「御経野の差別」の実態が、ありありと
 かがえます。

- かりいるよ。
 B ああ、いつそ雨がどんどん降ってくれたほうがいいさ。どう
 せ降るならね。
 A どうして？
 B 雨がどんどん降れば川に水が溜まる。その水の中に、この子を
 流しちまえば、その分だけ食いぶちが、助かるってもんさ。花を
 咲かせることができるってもんさ。
 A そんな悲しいこと言わないで。明日は、めしたきの仕事を終え
 たら、ご主人さまにおねがいして、おこげのところがいただいで
 くるから……
 B 「私やめしたき妹は子守り、おかんわら打ち草履わらぢつくり」ってわ
 けか。
 A 「草履わらぢ」ってのは「草履わらぢ」と言うんだって。
 B 知ってるよ。「おかん」というのは「おつかさん」という意味もね。
 この部落の方言じゃないか。
 A それよりね、おつかさん。足が冷めたいんだ。そろそろ足袋をこ
 うてほしいんや。
 B 足が冷みたくても、足袋を買う金もないことくらいわかりそ
 うなもんだ。
 A でも、赤ぎれで、足の指が痛いんだ。
 B 兄貴がもうけてきたら、買ってはかすさ。おかんだって考えてな
 いわけじゃない。
 A 兄貴が金をもうけてくるまでに、うちが死んだらどうするのや。
 B おまえが死んだら、そのときや足袋はいらん。そのほうが、い

それは、たとえばこんなふうな生活の中の歌だったと思われる
 のです。

ギター(物悲しく)

- A おつかあ、おつかあ、またチビが起きたよ。
 B それどころじゃないよ。こうしておとうが集めてきた薬を打って
 草履を作らないと、明日は粉米も買えないよ。
 A だって……
 B うるさいね。おまえも手を休めると、それだけ……草履の数が
 へるだけさ。さ、早くおし！
 A けど、チビだつてかわいそうだ。今夜はお乳はやってないんだ
 ろ。
 B お乳が出ないんじや、しようがないだろ。ああ、いつそ死んで
 くれたほうがましさ。
 A そんな……むごいことを！
 B むごいこともいいなくなるじゃないか。私のちいさい頃は、寝
 ぬ子は「たんぼに棄てろ」といったもんさ。粉米の汁を飲ませて
 あるんだ。放っておおき。
 A あれ？ 雨が降ってきたようだよ。明日もまた、おとうらは仕
 事があぶれるね。
 B 雨では薬も拾えなくなる。仕事があぶれたらに、薬も拾えなく
 なるとする……明後日はまた、水だけですすことになるね。
 A 水だけでは、またチビが一日中ひもじくて、びいびい泣いては

御経野に伝わる子守唄

採譜 北川 進

ねんねんしてく-れ ののこがかわ い -
 おきてなくと-は つらに-く い

つそ金がかからんでええわな。

A そんな悲しいこと、いわないで。

B 悲しいこと、つらいことはおまえだけが味わってるんやない。私がこの家に嫁にきてから、私は一度だって楽しいと思っただけはないさ。結局私はこの家の濁りの水だったのさ。

A 濁りの水？

B そうさ。濁りの水だったのさ。つまり食いぶちがひとりふえたって、姑にはいびられればなし。いつそ私がいなけりゃ後はすむって思ったもんさ。それが、この部落の嫁の宿命さ。

A でもね、おっかさん、私が死んだら誰が泣いてくれるだろう。ね、おっかさん。

B さ、誰も泣きはしないだろう。墓でカラスが啼くばかりさ。

A そんなものなの？ そんな……

B だって、仕方がないだろ。それが、この部落に生まれ育ったものの宿命さ。そう思ってあきらめないことには……

A どうしようもないってことなのかしら？

B だから死んだおばあちゃん、よく言ったもんさ。「おまえ言うの鳥、わしや聞くの鳥、山でカラスが啼く鳥」ってね。ただ黙ってグチをきく以外、手はないってわけさ。

A 悲しいな。お金がほしいな。お金が……

B でも、死んだおばあちゃんは言っていたよ。「一度でも名古屋城の金のシャチホコを見ておいで。あのシャチホコは金でできているが、雨ざらしだ」ってね。

A つまり……「どんなに金がありあまっても雨ざらしではね」

ナレーター1退場し、北川さんのソロで幕。

—(終)—

太田 こういう新しい創造活動というのは大事やね。それでこの部落、今はどんな仕事が多いん……

北川 日雇いが多いようです。

太田 僕らでもこういう歌ときどききくわけやけど、これは、友人の山本君という大阪の解放運動で、文化活動やってる人やけど、彼がこんな歌について、「子守唄」いうのんはちがうんで、「守子歌」やゆうんや。つまり子を守りする歌やのうて、ちいさな子どもが子守の仕事をする労働歌や、そやから守子の歌やというんです。それにしても、この詞には強烈な生活が出てるんやね。

北川 そやから、最初ビビッたですよ。

太田 竹田の子守唄はきれいにされてもてるけど。赤い風船の歌ったのはね。

北川 あれにもあるんでしよう。

太田 そりやあると思う。解放同盟の出した「兄弟」というLPの中では、四番のところは、村のたべたメシのことがでてきてるけど、またも「竹田のモンバメシ」といってね。

北川 商品化されてきれいにされてしまうんやね。最初、御経野の子守唄をきいたとき、強烈すぎてね。きれいに抜すいしうかと思っただけです。でもちよつとまでよ、それやったら意味ないよ。

太田 歌をほりおこすのんいやがられるいうことなかつた？

北川 ほんとうに婦人部の人々の生活のどこまで聞きだせたか、い

って意味？

B そうさ。金があつたって、金のシャチホコは雨ざらしだつて。

A そういつて、おばあちゃんは、お金のないことのおきらめをいつたつてわけね。

B おばあちゃんだけじゃないさ。みんなそういつてあきらめてきたんだ。「金のシャチホコ雨ざらし」ってね。

ナレーター1 この子守唄は、そういった生活のまじめさ、悲しさを子守唄に托してうたつていっているものなのです。いつてみれば「差別された歴史」の中から生まれた「生活の歌」だったわけですよ。それでは、この元唄を、御経野支部婦人部のみなさんによつてうたつていただきます。

「御経野の子守唄」(婦人たちによつて)

ナレーター1 ほんとうの元唄は、こうして「藁打ち」や、夜なべ仕事をしながら、女たちがうたつてきたものなのです。この歌の中に、歴史的社会的につくられた悲しくつらい差別の実態を汲みとつていただけのことと思います。

では、最後に、これを現代風にアレンジして「ギターによる語りうたい」を北川さんにおねがいして、しめくくりにさせていただきます。

ギターひき語り(北川さん)

うたらもうちよつとできてないと反省はしてます。けど歌をみんなの前でうたつたとき、涙ながしてくれて、僕にいわれなかった部分で思い出されてね。そのとき、やつてよかったのだと思えました。支部のおばあちゃんや、その他に寝ている人のどこまでいつてね。けど大きたびに歌詞がちがうんや。

太田 ようある、ようある。(笑)

北川 そやから自分で創るかなとも思ってたんです。でも、そのままにしたから涙ながしてくれたんやと思う。これは寝たきりのおじいさんにきいたのが一番まとまつて、これにちかい歌をうとうてくれて、それをそのままおこしたんです。

「足がつめたい」というところあるんですけどね、「足がつめたい」ちがう「足がちみたい」や、いわれてね。(笑)

太田 何歳ぐらい？

北川 八十歳ぐらいかな。

太田 ところで、その近くで同じメロディーのこつてない？

北川 僕は御所市。天理市なんでよくわからんのですけど。太田 というのは、この種の歌つてメロディーは、よく当時世間でうたわれてたもんとか、どこからかつたえられた場合があるんよ。北川 そういえば、たたかひの祭り(部落解放同盟中央本部主催・七八年)にでたあと、和歌山県連の人がきはつて、うちにもよくにたのがあるつて。

太田 そうやる。メロディーが伝わってること多いねん。歌詞も一部分だけね。それきくと、また部落のつながりがわかつてきたりしてね。

北川 これをうたつてから、おまえよそでやるけどおまえとこの支部ないんか？ってよくいわれてね。僕の支部（御所市小林）の西口敏夫さん（前全国同和教育研究協議会委員長）にきいたんです。そしてたらありまんねん。いっぱい。ところが節がぜんぜんのこつてへん。西口さん若い時にオープンリールに録音してあつちこつち持つてあるいたそうです。ところがそのあいだになくしてしまつて、今せんぜんおぼえてないということです。

太田 残念やね。そやけど、えらいね。そんな時分に、オープンリールでとつて持つてまわつたというのは、西口さんからその歌のたいせつさに目つけはつたんやろう。尊敬するね。でも、歌詞だけでものこしてたほうがええよ。

北川 歌詞はありますよ。うちの青年が同盟学生集会で報告しています。

それからね、「この街コンサート」いうんで一年かけて、奈良北部やらまわつたんです。労音の主催でね、四十数回かな。あるとき、御経野支部の子ども会がきまきまにきてくれたんです。それでおかしに、子ども会の歌を創つておくれたんです。

太田 オリジナルもやつてるわけやね。

北川 まだまだですけど、それを集団同盟登校の時歌うてくれてね。

太田 ええなあ、そうして運動の中でどんどん生まれてええへんとね。それで、その「この街コンサート」はいつまでつづけたん。

北川 去年の八月でひとくぎりです。それから、いろんなとこへは行きますけど。

太田 労音の活動があるからめぐまれてたんやね。

信州より編集部へ

志間耕治

なんか、ずいぶんとアツサリ、スツキリとした誌面になってしまったなあ、という第一印象で「水牛通信」創刊号を受け取りました。「水牛新聞」の時は、いろんな記事が、そして紙や文字がワツと並んでいる感じで、ちょっと読みづらいなと思つたりしましたが、今になってみるとあれはあれでなかなか良かったのでは、と思います。あのつめこみは、編集側の心意気が感じられたし、実際迫力があつた。それに、「本」のような、各ページ毎に区切られてしまう形式にくらべ、一種の視覚的な「カクテル・パーティー効果」があり、読む側に注意力、集中力を自然に要請していた。そしてなによりも、個々の記事、内容を越えて、紙面に独特な雰囲気があり、そこになにやら新しい世界を感じさせてくれたのですが……。

つまり、「水牛新聞」を始めて見た時「ウン、何やら（異）なものがある」とぼくの嗅覚をくすぐつた「何か」が、「通信」になつて薄ら

北川 ええ、ところが支部ではまだとりくめなくて、さっきの歌のこともそうですが、村かえつてしまつたかたくなつてしまつた部分があつてね。青年部長ですから（笑）かたい話ばかりするオッサンや、思われとるみたいです。よその支部にはホイホイ行くんですけど、自分とことなると本能的に堅物になる（笑）

太田 「オイ、なにしてんや」いうてふんぞりかえつとる（笑）

北川 子どもにはきいてもらいたいんですけどね。

太田 今後は、やわらかくなつてもうてやつてもらわんとね。

北川 また、いろんな音楽活動をやつていこう思いますけど、これから定期的に、旅ちゅうか、いろんなとこへ入つていきたいです。それから、うちの村はヘップサンダルの仕事が多くてね。ノリをぬりながらメシ食べる。朝早ようから、晩遅うまで仕事しているオッサン、オバチヤン、うちの両親もですが、みんな結局ラジオかけっぱなしなんです。ラジオからながれてくる音楽と、いつもいっしょなんです。村の人は「音楽活動がなればよ」つていわへんけど、「ラジオに出えや」いわれるんです。ラジオからの音楽が生活の一部分ですからね。そのへん、さみしい思いがするんです。それと、反面それが必要かなとも思うんです。夜も昼も、ジツとヘップの仕事でしよう。なにかでこたえたいという気がふつとすること、あります。

太田 まあ昔やつたら、仕事しながら歌ができたやろけど……御経野の子守唄とかイカダ流し唄とかいうのは、そんなところから生まれてきてる。そやから、今仕事場であう歌をつくるいうたらなんやろね。それがとわれてるんかもしれんわな。

いでしまったという感じなのです。もつとも、「新聞」の形式は割り付けだけでも大変だったのだからと推察しますが……。高橋さんの文章を読んでいてちよつと思つたことを述べたいと思います。

ぼくらは日々にある「場」に生きている。ぼくらの日常の表現は、いつもその「場」に支えられている。それゆえ、言葉による表現にしても、それが一体何を切り取つてきているかをいちいち証明せずに済んだりしている。運動の中で生まれた身振りや言葉なども同様ではないでしょうか。その場の気圧の中で始めて息づいている、また、いけるものなのでは……。ぼくは日本の民衆の運動も、その中に運動の文化を持つていないはずはないと考えるのです。ただ、運動と文化が密着しすぎていた。それは一瞬流れをとどめて、自らをとらえかえすこと、外へ向つて呼びかけてゆくことを忘れていたということでもあると思います。

「団結しろ！」「たたかえ！」と声高に叫ぶことより、ぼくらの身近に、日々のなに気なきの中にある、ぼくらの真の状況を地道に探りだしてゆくべきではないか。問題は、日常性の中にそれが見えにくくなつていくこと。そ

こに光を当ててゆきたい。

先日、長野で「たまごの会」という、農業問題で活動しているグループが自らの手で制作した映画「不安な質問」の上映会を開きました。運動がこのような自らの表現を持ち、全国のさまざまな地の人々と手を結び、自らの運動を紹介してゆく、そして、そこからさまざまな批判を受けたりして、ふたたび自らの運動へ持ち帰つてゆくことの意味を非常に感じた次第です。この上映会のおかげで、県内的な結びつきも生まれ、市内のいくつかの運動が出逢うことにもなりました。「水牛通信」も、新しい人々の手に渡すことが可能となりました。そして現在、この上映を中心のになつた人たちと、新しい動きが始まるうとしていきます。

泊りの勤務の最中、いくつものTVの画面、ボタンとランプの群の前で、これを書いていきます。ただ今、23時53分34秒。もうじきNHK教育終了。こんなに遅くまで誰が見ているのか？ 民放TVはさらに続く。そして電話は一晩中。コンピュータが明日のプログラムを打ち出してきました。確認作業に移ります。

（投稿）

永登浦散調

梁^{ヤン}
性^{ソク}
佑^ウ

錐のように さしこまれる 終りをしらない 痛みの上に
ああ、私がこらえる数千数方の
夜を
血の涙でなければ
だれが 知ろう

三

やり場のない反骨の私の胸に
杭を打ち
私は鳥のように 小さな羽 ばたつかせ
君の名を呼ぶ
飢えた子どもをおぶい つまずき
そここの 石ころに ころがりながら
君の 悲しく せつない名を
声はりあげて 呼ぶ

四

君よ、語ってくれ。愛する人よ。
風のまにまに ひとこと 君よ語ってくれ
殻は死んでも 中身だけは死なず
その どこか 雑木林の中に 隠れていると
夢にでも ひとこと
君よ 語ってくれ

一
君をおもい 私は 目を開き
血を流し 魂を失い 刃先の上に伏して
くさった水 砂場で 子らが泣くと
不吉な雨 風の中に 君は去り
私は 君の足跡に 唇あわせ
愛の歌をうたう

二

だれが 知ろう、
血の涙でなければ だれが知ろう、
隠すことのできない 深い傷あと、

五

深い夜 病んだ子どもの 枕もとで
体中に 燃える炎 両手でおさえ
猛々しく 吹きあれる 暴雨のもとでも
かえって野草よりも 長く耐え
死なず やつとの思いで 生きているのは
命より 君を 愛するがため。

六

君をおもう 深い懸念 私の胸を
削ぎ
子らの泣く声 死んだ者たちを 呼びおこすとは
どうしよう。君は来ず。
子らの泣く声
死んだ者たちを呼びおこすとは。
冬鳥 鳴く 夜半の丘の上には
乾いた樹木ばかりだ、
乾いた樹木ばかりだ、
愛する 人よ

七

君の 去った 茨の道
私も行こう。

千年さらされ 寝静まった 土地をあとに
呪詛の海を越え

私も行こう。
不吉な雨 風の中に
愛の歌を うたい、
君の去った 茨の道
私も行こう。

イ グムスン訳

「シアレソリ」一九七九年八月号所収

*永登浦(ヨシデユンポ)

ソウル市にある工場地帯。「苦行—一九七四」に記されていると
おり、この街の一面にキム・ジハたちの拘束され労役に服してい
る印刷工場のある矯導所がある。

*散調(サンジョ)

韓国の民族音楽における基本的リズム形式。

ペトリカメラ保育園訪問記

高橋 悠治



東武伊勢崎線、梅島駅にちかづく、左側にペトリカメラ工場がみえる。灰色の屋根に赤旗がひるがえっているから、すぐわかる。さびれた裏道を高架線路の下にそつてもどる工場の門にも守衛はいない。がらんとした事務室のとなりの応接室でしばらくまつ。保育園の昼寝時間になって、保母さんの手があくまで。

中庭のむこうの建物が一番はしが保育園になっている。いつか、もちつき大会にたずねたときは、この中庭に子どもがたくさんあそんでいた。むかしの学校の宿直室みたいな四畳半に赤ちゃんが二人ねているだけの保育園は、

まったく予想とちがっていた。わかい保母さんがひとり、ぐずる子をねかしつけている。はばたき保育園は、一九七八年五月にできた。ペトリカメラ倒産から約半年。五人の子はみんな0歳児。保母さんは三人だった。

公立保育園は、区によってちがうが、0歳児のめんどうはみない。私立となると月四、五万円はかかる。倒産企業の組合員がはらえる額ではない。工場内保育にふみきり、一歳以上は公立におくりこむようにした。こんなことを、ゆりかごをゆすりながら、保母さんがはなしてくる。戸だなから資料もだしてくれた。保育園運営委員会教宣「は

ねっこ」の、のこりすくない何部か。内部用に百五十部ほどつくっていたもの。

七八年度は毎週でいた。おかあさんたちのなかに、ピラツクリの名人がいて、さつさとつくってしまった。十月になって生産がいそがしくなったので中断。七九年度は、九月と十月に復刊しただけで、いまやまぼろしの「はねっこ」になった。

一号がのこっていないのが残念だが、二号からみていくと、保育園はちいさいが、自主生産のなかで、だいいな位置をしめていることがわかる。

「毎月一千件をこえる倒産が続く中でし

寄せを受けるのは婦人であり、その中でもパート、子持ちには容赦もない。」(一九七八年六月十四日、二号)

全金ペトリ支部には、女のひとがおおい。くみたてをやっているパートの方は、平均年齢四十代後半。このひとたちが脱落しないでやっていくには、たたかいを家族ぐるみにすることが必要なのかもしれない。

わけにはいかない。カンパをあつめ、バザーをやる。親の負担金は月二万円。行政にも、保育園をはじめとせず、援助を要求した。

「一、区はペトリカメラ支部の産休明け乳児の保育を保障するため、社内保育所の施設整備費三〇万円、月々の運営費二七万円を直ちに援助すること。

二、区は、ペトリカメラ支部の生後六ヵ月以上の子供について優先的に公立保育園に入

はねっこ

あたい入らん

(あ)の田の連絡帳より

六六 船子二月月賃
五田二のグラム五
六二 離産はじめる
六三 結果は(五〇%)二
六四 すすちや。とんぼ
かめるおぼれ。
六五 日本婦人会員
六六 二度目の取材。金休
六七 支那人。パートさん
六八 支那人。
六九 社長と大喧嘩。
七〇 十一年の(まじ)酒
七二 井かいたりパートさん
七三 井かいたりパートさん
七四 井かいたりパートさん
七五 井かいたりパートさん
七六 井かいたりパートさん
七七 井かいたりパートさん
七八 井かいたりパートさん
七九 井かいたりパートさん
八〇 井かいたりパートさん

保育ニュース はねっこ第2号
1978年6月14日発行 B5判

九月になって、家庭福祉員制度をとりいれることで、はなしがつく。資格をもつ保母がいらないから、家庭でよその子を保育することについて、いくらかの援助をもらうのが、いまの制度のなかでの、ただひとつの道だということだ。保母の資格は国家がきめる。教育心理学のようなもの以外、ピアノがひけることも必要。

保育の必要がまずあり、自分たちの力でつくりだした保育園だ。そこに行政の援助を要求することは、まったくたがたい。労働する女の存在を社会にみとめさせることだし、ペトリの場合、倒産した工場にふみとどまった労働者をもとめさせることにもつながるにちがいない。

要求は有効でもある。じつさいに保育を必要とする子どもがいて、たてまえからいえば、区に責任があるはずだ。自主的な保育はもうはじまっている。既成事実のまえに、行政は受け身になる。

三人の保母に三万二千円ずつをひきだすためにも、これだけのねばりづよい交渉が必要だった。しかし、保育の自主性は保証されたのではない。公立保育園をしばっている規定のこまかさをかんがえれば、自力ではじめたことよきもわかつてくる。

嘱託医については、組合かかりつけの医師が、みてくれることになった。ペトリのたたかいを支援している人だ。ふだんは、保育園だけで子どもの健康管理はできる。ちよつと熱があつて、ふつうの保育園では家へかえす子も、ここではあづかつてせわする。あたりまえのようだが、制度の枠にはいつた保育では、めんどうな子どものせわはしないし、できないしくみになつてもいることをわすれてはいけない。

「はねっこ」をひろいよみし、はなしをきいているうち、子どもたちがおきてきた。四月のまいちゃんは、ひつきりなしによだれをたらしている。歯がかゆいのか。しかし、

ろが頭にうかぶ。

これが下町のくらし方だろうか。子どものころ、東京のこの辺で雑貨屋をしていたおじいさんをたずねたことをおもいだす。店につづいた一間の家はガランとして、皮ジャンがくぎにひつかかっていた。それをきこんで、オートバイのつて、ハナをすすりながら、おじいさんは配達にゆく。ふるびた家なみのなかに、最新の小道具がちよつとだけあるのだ。三十年も前のことだ。

授乳時間は三十分。朝十一時半にもあり、これは昼休みとつながっている。

四時すぎ。男の子がひとりはいつてきた。道のむこうの私立保育園から、おかあさんがつれてきたのだ。「ぼくのおうちも道をわたつたところ。」三歳。紙ヒコーキをつくつて、それをとばしはじめる。それから二時間も、この子はそれだけをやっていた。

五時すぎ。ドラエモンの絵かき歌がきこえてくる。五、六人なだれこんできた。夜間保育の日だ。てっだいのおかあさんたちがくる。保母さんは、闘争委員会にるので、かえる。赤ちゃん二人も、おかあさんがつれてかえる。ねんねこにしかりくるまつて、おかあさへやにちいさなストーブがはいる。

歯があつたつけ。六カ月のまあちゃんはきげんがわるい。天井からひもでさげたあみのようなものに入れて、両足が床にとどくようにしておくと、ひとりではねて、やつときげんがなつた。このしかけは輸入品で、デパートでかつたそうだ。ほかのあそび道具は、みなカンパされたもの。

ただ一人の男の子が、となりのベッドのあるへやからでてくる。やすくん。一歳近い。あるけるし、片言もしゃべる。はめこみつみ木であそぶ。ちえのはじまりだ。

この三人が今年の全員。昨年の五人はみんな、公立保育園にいつた。三人だつた保母さんも、いまは一人。週二回の夜間保育のときだけは、おかあさんたちがてっだいにくる。

夜間保育は五時から七時半まで。これは、保育園のはじめからやつていっている。工場のしごとのあとでの集会などに、おかあさんたちが出席できるのも、そのおかげだ。ここには、公立にいつている子どももみんななく。小学校一年生が最年長だということだ。組合委員長の息子だが、委員長はこの工場にはたらく男たちのなかでは最年長者で、それでも三十代のなかばだ。あとは二十代と十代の少年たちだから、全体の印象がわかいのもあたりま

ここは一番保育園らしい。室内すべり台があり、ブロックがあり、子どもの絵がかべをかざつていっている。

ブロックにのぼつたり、おりたり。男の子たちは紙ヒコーキをとりあつて泣く。そのさわぎのなかで、絵本をじつとみつめている女の子がいる。

いままでのちいさいへやはかたずけて、食堂にかわる。六時、夕ごはん、カレーライス。みんなよくたべる。おかわりする子もいる。


おかあさんたちは、工場内保育は子どもが近くにいるから安心だ、という。この子たちにしても、親のしごと現場に、すくなくとも週二回あつまることの意味はおおきいだろう。ふつうの保育園では、親は子どもを置いて、どこかへ消えてしまふ。子どもは親がはたらいっていることの実感をもつことはないだろう。

えだ。女の人たちはパートのなかに六十代の人もいるらしい。女の平均年齢の方が上だということになる。これもふつうの職場とはちがうことではなからうか。

一人で三人の幼児をみるのはたいへんだ。森さんは、それをなんとかこなし、片手では記録をとつている。三鷹の保育園にいたときに、ペトリのことをしつて、支援するようになつた。保育園がはじまつたときは立川に住んでいたので、朝八時二十分にペトリにこの近所にいつこした。畑がのこつているように立川とちがつて、ここはまつたくの下町だ。くらし方もちがう。

三時半。おかあさんたちがきて、授乳の間。授乳といつても、補乳びんからのませるだけ。やすくんはビスケット三枚とバナナ一本。コップにいれた牛乳にはみむきもしない。おかあさんたちのおしやべり。話題になつていっているのは、デパートの大安売りのチラシにでているホットカーペットというもの。しごとがおわつて家にかえると、床がつめたたい。石油ストーブをつけるあいだに、足をあたためたい。たぶん、あまりひろくない家に、そんな間にあわせの機具がひしめいているとこ

ぼくたち体操たいちぎ



手足のマッサージ (Hand Massage)

家庭福祉員制度 (Home Welfare Worker System)

山崎製菓 (Yamazaki Confectionery)

1976.9.18(9)

この保育園での集団生活は、ほかの保育園のように子どもだけの世界ではない。おかささんたちといっしょに、生産の場の空気がながれこむ。労働者の子としての階級教育は、自然にできていくだろう。

争議団で保育をやっているところは、ほかにしらない。台東区的全通東京貯金支部では一九五三年からあって、ベトリからも保育園初期に交流をもった。しかし、最近の倒産企業では、食堂をやっても、保育園をやったはなしはきかない。ベトリの労働者がわかなく、カメラ生産と同時に、マルクスのいう人間の再生産もおこなわれているなかで、必要になってきたこともあるだろう。

ここが下町工場だということもある。家と職場は近く、工場内保育は、店のおくに子どもをねかしておくのと、そんなに変わらない。保育園があることで、行政の目からもベトリ労働者が「存在している」ことは、もうかいた。保育園は、工場と地域をむすぶものでもある。資金づくりのためのバザーは、地域にひらかれた工場の窓になる。

地域をまきこむことで、争議団はやっていく。下町工場ではあっても、カメラをつくるベトリの場合、地域ぐるみの運動をつくる

のは、カメラ販売ではないだろう。カメラは部品生産を下請けにたよる技術集約産業であり、技術開発にのりおくれたことが、ベトリ倒産のきっかけのひとつだったはずだ。ベトリは争議団でありながら、生産をつづけている。このかねあいはむずかしいところだ。生産が安定すれば、運動としてはどうしてもパターン化するだろう。

保育園は、安定した生産体制を保証するためのものにみえるが、じつは運動としてたえず活性化しなければ生きのこない部分ではないだろうか。初期の「はねっこ」は、当時の熱気をつたえている。なれない保育にとりくみながら、外にもどんどんかけ、保育園運営とベトリ闘争はひとつになって発展していった。「はねっこ」は子どもたちをまきこんだ闘争日記だった。それがだんだんと、ふつうの保育園でだす連絡帳のようなものにかわってゆく。保育にもなれ、生産体制もとのつてきたころには、「はねっこ」はまぼろしの存在になっていたのだ。

何もしないでいれば、工場の片すみにある保育園は、わずれられそうになる。昼間はたった三人でも保母さんはもう一人はほしい。取材にいった、はなしをきくとというより、子

どものあそび相手をしながら、そうおもった。これは保育園というよりは、保育運動であるべきだ。はばたき保育園は、その名のとおりはばたいていなければ、とべない鳥になつてしまふ。

争議は十年かかったとしても、一時的なものだ。争議団は勝利した日に解散する。だが、勝利とはいったい何だろう。団結以外に保証は何ひとつなかったあのあらしのような日々にあじわった解放感をうしなわれないことが、ほんとうの勝利ではないだろうか。

資本主義のなかで、労働者の自主生産が永続することは、まずありえない。いつかは、「解決」の日がくるだろう。闘争勝利は、その意味では敗北ともよべるかもしれない。それが二歩前進のための一歩後退であるように、運動の速度をおとさずに、その地点をのりきるかどうか。

はばたき保育園は、来年度には五人はいる予定だときく。人手も必要だろうし、バザーもひらかなければならないだろう。四月はもう近い。はばたく時だ。

つてきたのだ」と。

2 「ユリキ」に注目

いわゆる「人民党」と称された河在完、李銖秉氏との出会いを通し、詩人はこの人々が無実であることを確信し、かつ自分自身の寄つて立つ地平を見極めた「苦行―一九七四」は、文字通りその後の詩人の命運を占うものとなつたが、そこに何度となくあらわれる「ユリキ(そうだ)」ということばに注目してみようと思う。

「ユリキ」とは、日本語でいえば「そうだ」という意味になるだろう。日本語でも、「そう」「そう?」「そうだ」「そうなのだ」と変化しつつ日常的によく使われるように、「朝鮮語」の「ユリキ」も「ユリキ」「ユリキ」「ユリキ」と、相手のことばに相づちをうつつたり、語尾をあげれば疑問、さげれば納得や確信をあらわすなど多様に用いられる。このいとも単純に思える〈ことば〉が「苦行―一九七四」を理解するうえで、重要な鍵としてちりばめられている。

そう思うようになったのは、昨半夏、ある集会の場で、原語のまま朗読するという機会を得たときのことであつた。

〈朝鮮語〉の学び方Ⅲ

声にひびかせると見えてくる

〈ことば〉の世界

1 帰郷

「暗うつ、悲痛、そして沈痛の一九七四年。

——この年は、すべてのものが束ねられた結び目であり、反対に解かれた結び目でもあつた。2・15一部釈放措置により釈放された人たちの痛みは、前も今も変わらない。彼らだけの痛みではなく、すべての者の痛みを、まづは金芝河詩人をおして聞いてみる」とは、一九七五年二月二十五日から三日間、東亜日報に連載された「苦行―一九七四」編集者言である。

一九七四年四月、ふいに逮捕された詩人キム・ジハは、十年余のあいだ恋こがれていた

李 銀子

ウソジャ

故郷に、手錠をはめられた姿でたどりついた。何とも憂うつな帰郷であつた。ところが、故郷全羅南道の木浦港にたどりついたとき、詩人をむかえたものは、昔と少しも変わらない貧しい故郷の姿であつた。そして、

「波止場にむかつて立つ、多くの魚商いのアジユモニ(おばちゃん)たちの、生活に疲れ陽にやけた顔、そのために自分と同じく貧しく飢えた、運の悪い奴だと思つている顔たち」であつた。その顔たちに、自分の帰郷を迎えてくれる故郷の熱いあいさつを「発見」したとき、詩人ははじめて自分の帰郷を自覚するのであつた。

「そうだ。私はやつとのことで、故郷に帰つ

それまでも、何度となく「苦行」をよんで来たが、黙読ではなく、人前で声に出してよんでみると、いままで気づくことのなかった、詩人の心の動き、その節目をはっきりと感じたように思った。その鍵が、この「ユレム」(そうだ)であった。

3 獄舎での出会い

舎上15房にいた「私(キム・ジハ)」と、舎下17房にいた河在完氏との通房、そのときの「ユレム」は、会話体の「ユレム」となって相手のことばに相づちをうつようにしてあらわれる。

「灰色の空に低く雨の降るある日、だれかが、しわがれた声が、私の名を呼ぶのです。……私の名を呼ぶのは、だれなのか、と大きな声で聞いたのです。声は答えます。

ハ・ジェワンですか。

ハ・ジェワン？ どなたですか？

人革党です。

아항, 그레요。(ほう、そうですか)人革党、あれは本当ですか？

もちろん嘘です。

じゃ、どうしてそんな所にとじこめられ

ているのです？

拷問のせい입니다。

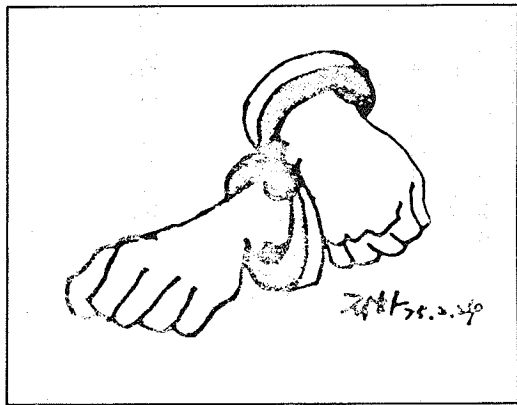
拷問をたくさんうけたのですか？

いってくださるな。はらわたがみんなはみ出しちゃって、滅茶苦茶です。

そんな、チュツチュツ

と私が舌打ちすると

あいつらも、政治問題じゃけん、ちよつくらがまんしてくれろと言うんでき。



と河氏はつけ加えたのです。

아항, 그레요。(うーん、なるほどね)

この「아항, 그레요」ということばは、出版されている日本語訳では、その場面場面でほかのことばに置きかえられるため、見落してしまいがちだが(翻訳のためには仕方ないが)、原文をたどってみると、獄舎に追いやられ、なんの装飾もない四角い部屋のなかで「死」と対面し、「死」との戦いのなかで出会いものたちとの対話を、一つ一つかみしめようとするとき、「아항, 그레요」はおなじ姿であらわれ、変貌する。

はじめに登場する「아항, 그레요」は、相手の話を最初からうのみにするのではなく、相手と距離をたもち、カラカラと乾いている。

七月のある日、拘留所内の「診察」日。順番を待つ「私」の肩を、そつと小突き「キムジハ氏ですか？」と小声で話しかけてくるものがいた。

そうですが、お宅はどなたですか？

私がハ・ジェワンです。

아항, 그레요。(ああ、そうでしたか) その出会いは、まるで、地獄で百年の知己

に出会ったようだった。

キム・ジハが出延しようとしていたある日、「蛮敵論」を書いた李録秉氏に出会う。

まったくお恥かしい次第です。国のために何らなすこともないまま、こうして引っぱられ、あの輝かしい学生運動に泥を塗る役をふり当てられている体たらく……本当に申しわけありません。

아항, 그레요。(何をおっしゃる、そう

でしたか……)

4 確信を導きだす

相手の話には、相づちをうつようにして発せられた(ことば)は、これらの人々との出会いから、自然とわきあがってくるものが決定的な塊りとなってあらわれたとき「아항, 그레요」は、原形「ユレム」(そうだ)となつて、現状をかみしめようとする。

それは、死刑を求刑された金秉坤の最終陳述「光栄です」を聞いたときの、その衝撃を、自分の内部に反響させ、得た確信を導こうとするとき、最も強くあらわれてくる。

「光栄です」ああーこれはいったい何ということばなんだ？……聖者のことばだ。それは。

われわれが聖者なのか？ 死刑執行などできま

いとたかをくくり皮肉ったことばだ。それは。どんな事でもやりかねない、奴らのあの狂暴さを知り尽したわれわれが、まさか死刑執行などできまいと考え、たかをくくっているような、そういう立場なのか？ ちがう。

それなら、いったいどういう(ことば)なのか？

「그렇다, 확실하, 그렇다」(そうだ。確実にそうだ)われわれはついに死に勝ったのだ。……キョンソギが一人、ピョンゴンが一人、そして私一人が勝ったのではない。われわれすべてが、集団的に勝ったのだ。

……それは歴史的な瞬間だった。いや、歴史

的なものだけではない。宗教的な天上の予感であった。いや、宗教的なものだけではない。芸術的な感動の極致でもあった。그렇다(そうだ)その瞬間は何であるのか。……私はそのとき、なにか異常な靈感に接しているような感情がわいた。そしてふと、ただ一言「政治的想像力」という語句が、私の脳裏に、奇妙にもそれと同時に、まさに私の胸のなかで、火に熱した真つ赤な烙印のように、痛く痛く、深く深くきざまれていくのを感じた。

그렇다(そうだ!)「政治的想像力」卓越した意味での政治と芸術の統一……統一ノ——

「まさに、それなのだ」

5 予感を導きだす

かつてキム・ジハは、自分自身の詩が、「行動の詩」になることを願った(処女詩集『黄土』後記)。まさしくこの瞬間瞬間は、地獄を徘徊し這いつくばり出会うものから、勝ちとつた確信であり、予感である。

獄舎での出会いを自己に照らし、ふたたび「그렇다」はもう一度反復される。

「よくぞ来たな、ジハよ。この地獄によくぞやって来たな。お前の名、お前のもう一つの故郷、おまえが、来るべくして来たところ、おまえが、おまえのすべてのもの、爪ひとつ髪の毛ひとつでも捧げつくした、あの呪われた肉体たち、あの追放された魂たち、いわゆる窃盗、強盗、殺人を犯した者たちとともに解放されるあの白旗がひるがえる日、あの光輝く朝日の昇る日、あの暴風と怒濤の、この世の生まれ変わる日、この世が生まれ変わる日への、このはかない待つということ、ここは監獄なのだ。やつとこのことで、本当にはじめて、どうにか私は奈落の恨と完全に一致したのだ。아아, 그레요(ああ、そうだ)

われわれは、すべてを縛りつけているあの黒光りする鎖や手錠に一致する、漆黒の闇のなかで、ぐらぐら燃えたぎっている溶鉱炉、ここが永登浦監獄なのだ。」

一九七五年二月十五日、韓国政府は刑の「執行停止措置」により「人革党」関係者をのぞく政治犯一四八名を釈放した。詩人もこの時釈放されるが、その「釈放」とはいったい何であったのか。

「今日、私は獄門を出た小さな血まみれの指だ」

6 統一を導きだす

地獄に身を置き、直面する「死」との戦いから感じとつたはずの「あんなにも一致していた魂と肉体」、ところが、その（統一）は、「絞がしこい魔のたくらみによって、まさにバラバラにさせられている」ではないか。そう気づくとき「ユリコ」は、さらに息をふきかえず。

「ユリコ、ユリコ（そう、そうなのだ）わが魂は、あの監獄においてきたのだ。抜け殻だ

解放の美学

20世紀の消された芸術史を中心に
—絵を見、音楽を聞きながら—

講座・第1期 4月18日～6月20日
毎金曜日・PM6:40～9:00
定員35名 会費10回 10,000円
場所 渋谷・シアレヒム社
宮益坂より2分、青山学院の手前

- | | | |
|------|-----------------------------|------|
| 4.18 | ロシアの民衆と知識人 | 和田春樹 |
| 4.25 | 1917年、戦争と革命と画家 | 富山妙子 |
| 5.2 | ロシア革命と前衛絵画 | 富山妙子 |
| 5.9 | ロシア革命と音楽 | 高橋悠治 |
| 5.16 | ドイツ革命の社会史 | 三宅立 |
| 5.23 | ドイツ、消された画家たち | 富山妙子 |
| 5.30 | ワイマール共和国とパウハウス | 富山妙子 |
| 6.6 | ドイツ革命と音楽 | 高橋悠治 |
| 6.13 | 抵抗音楽としての韓国歌曲 | 鄭敬謨 |
| 6.20 | 『しばられた手の祈り』『めしは天』『蜚語』上演と懇談会 | |

申込み 火種プロ 03 (425) 6095
お問合せ 東京都世田谷区桜丘4・16・2

けが出てきたのだ……行こう、私の魂をさかしに行こう、行って獄門を開いて、私の魂を解放しよう！……私の魂が会えるまで、私の肉体は戦うぞ。それが、むちや棍棒でぶたれちりぢりばらばらになって散って、あの風に消えてなくなるまで」

7 「書物よ。君たちには声がない」

母語とは異なる（ことば）を、自分の意志にもとづき新しく学んでいくことの喜びには、

学ぶ（ことば）から、そのことばのもつ生活の背景や息吹きを感じるようになるのだと思う。

それは（ことば）を目で追ったり、ただ翻訳するだけでは（ことば）を書物のなかにとじこめることになってしまふ。しかし、実際に声に出しひびかせてみると、ことばに、生命が吹きこまれ、その（ことば）が発せられた世界を感じることができるようではないか。

サトウキビ畑の即興劇

堀田正彦

六、バゴ・クリスト

「実践教室」の参加者の年齢には、十四歳から三十四歳までとかなりの幅がある。職業も、農民、プランテーション労働者、漁民、家事手伝い（失業中）、学校の先生、聖職者などなど、きわめて多様である。しかし、聖職者と学校の先生をのぞけば、職業の差は貧困という大きな圧力の下でほとんど目立つことはない。

このひとたちは、自分たちの属する教会の「教区」を代表して参加している。国家の行

政組織の最小単位が「バランガイ」と呼ばれる部落（都市では町内会にあたる）であるとすれば、「教区」はカトリック教会によって組織された最末端の生活単位である。

フィリピン国民の九十四パーセント近くがカトリック教徒であり、民衆の日常生活を律する強力な背景として教会が存在していることはすでによく知られている。そのフィリピン社会に、マルコス大統領の「新社会」建設のための行政単位である「バランガイ」と、伝統的な生活単位である「教区」とが並存しているということは、取りも直さず、民衆生

活のレベルに政治と宗教という対立し合う二つの権力構造があるということだ。

カトリック教会は、本来、民衆の現世からの超越をこそ司るべきものだ。だが、八年前にわたる戒厳令下の独裁政権のもとで、増大に増大を重ねてきている諸矛盾は、教会そのものをも、グイグイと現世の直中に引きずり込む圧倒的な力として働いている。

たとえば、世界銀行や外国資本によって「安定」した投資環境づくりをせまられたマルコス政権は、新人民軍鎮圧を目的とするフィリピン全島の「軍事化」を進行させている。この「軍事化」に伴い、各地で民衆に対する暴行・虐殺が頻発している。軍隊の暴力に追われた民衆を公然と援助できるのはパチカンを頂点とするヒエラルキーに支えられた教会以外にはない。しかし、その教会ですら、先進的な神父尼僧の逮捕、拷問という真正面からの弾圧を受けることが多くなっている。ここにおいてフィリピンのカトリシズムは、自らの宗教としての本質を問い返す形でのきびしい試練に立たされているといえる。つまり、政府軍の抑圧に抗して、貧困と暴力にあえぐ民衆を現世の直中において救わなければならない、社会正義を現実に体現する機

能を政治にわたって果たさなければならぬ
という緊急の課題を背負わされているのだ。

「教区」を預かる神父たちが、その最前線に立つことになる。軍隊によって拉致された農民の捜索、虐殺に抗議する葬列デモの組織化。インチキな政府の農民組合に対して、農民自治の協同組合を結成させ、運営を指導し、資金を援助する活動。あるいは、理想の共同体の建設を目ざして、農民とともに密林を開墾する若い神父など。各地の状況によって、それらさまざまな活動が行なわれている。そして、それらの最前線で活動する聖職者たちは、進行する抑圧によって、よりラディカルな方向へと向いつつあるように思える。

この動きは、第三世界に芽生えた新しいカトリシズムという形をとり始めている。「解放神学」と呼ばれるそれは、抑圧者の宗教としてこの地にもたらされたカトリック教を、被抑圧者の側から取り戻し再生させようとするラディカルな運動として、とくに「地方」において活発化している。

ある若い神父は、
「全カトリック聖職者の三十五パーセントは、われわれのこの運動の側に立ち始めていますよ。しかも増えつつある」

と語っていた。

「実践教室」において上演されたある即興劇は、この「解放神学」が生み出した新しいキリストの姿を余すところなく伝えている。

この即興劇には次のような課題があった。
（フィリピンの民衆劇の伝統的な形態を模倣しながら、題材としては自分たちが現在直面している問題を取り上げること）

ここでいう「伝統的なフィリピン民衆劇」というのは（シナクロ）、（サルスウェラ）、（コメディア）という三つの劇様式のことである。（シナクロ）は十七世紀のスペイン人が持ち込んだ「住民教化」のための宗教劇である。キリストの生涯の一場面を荘重に演じるもので、現在でも年一回、四月の感謝祭の期間中に各地で上演されている。（サルスウェラ）はスペイン歌劇のフィリピン化したもの。千九百年代のアメリカ統治時代には「反米」のメッセージを反スペインに置きかえて演じ、民衆に圧倒的に支持された歴史がある。（コメディア）は、その名の通り民衆喜劇である。これもスペイン統治時代の演劇形態が大衆劇化したものである。

この教室では、民衆に馴染み深いこれらの劇様式を、現在の地域文化活動の中に復活さ

せ、利用してこういう積極的な意図で前記のような課題を提起しているのだ。
「解放神学」の真髄を見事に即興劇化したのは、（シナクロ）を課題として与えられたグループだった。

（シナクロ）の主役はもちろんイエスである。イエス役の俳優は、巷間に流布している伏し目がちで、細面の、ひ弱そうなイエスの似顔絵とそっくりの、スペイン系混血の二枚目でなくてはならない。内容的には、さまざまな苦難や迫害をじつと耐え忍ぶイエスの気高さを示す逸話が題材になっている。右の頬を打たれたら左の頬を出せ」ということばそのものがテーマなのだ。

「解放神学」では、この「耐え忍ぶ、ひ弱なイエス」に象徴される超越的忍従こそ、三百年の植民地支配の歴史の中で、支配者たちがその支配を貫徹するためにフィリピン人に押しつけて続けてきた作偽的な教義であると批判している。（シナクロ）は、まさにそのイデオロギー教育の道具そのものなのだ。

この、いわば征服者の道具をつかって、闘う民衆のための芝居を作れという課題を与えられたグループは、まず、徹底的に（シナクロ）の様式を模倣することにした。

彼らは、白いシャツや黒いカーテン、果てはミサ用の金襴の布を借用して、ローマ時代のユダヤの衣裳を見事にこしらえあげた。

だが、劇のすじ立てが全く違った。

主役は貧しい農民の夫婦である。この夫婦が父祖伝来の土地を、勝手に登記をし所有権を主張する金貸しに乗っ取られてしまうことからこの劇は始まる。夫婦は裁判官に訴え出すが、裁判官は文字すら読めぬこの夫婦の所

有権を頭から認めず、二人は土地を取り上げられることになる。取られた土地になお居残り続ける農民の所へ、金貸しが軍人を連れて現われる。立ち退きを拒む農民は、軍人によって無残にも虐殺される。

この劇は、ギリシャ悲劇を思わせる荘重な調子で演じられたのだが、この虐殺のシーンを演ずる時、彼らは、ローマ軍人の服装をし短剣を持った登場人物に、ダダダダダダダと機関銃の口真似をさせて、農民を撃ち殺させるという演出をこらしたのだ。

（シナクロ）風の荘重な様式の中に、突然登場したこのシーンは、思わず息を飲むものたちに与えた（この劇に限らず、参加者たちが演ずる軍隊の暴行・虐殺のシーンには共通してリアルな衝撃力がある）。

埋葬のシーン。悲嘆にくれる妻の前に殺された農夫が、手に剣を持ち再生する。彼は自らを「イエス」と名乗る。

「わたしがイエスだ。暴虐の弾丸に射ぬかれた農夫は、ここに剣持つイエスとして再生した。圧政の前に立ちすくむ貧しきひとびとよ。頭を上げ、わたしを見よ。わたしはお前だ。わたしはイエス。闘うお前だ。」

再生した「バゴ・クリスト」つまり新しいキリストは、手に持った剣で軍人の胸を刺しつらぬき、自らの家族と共同体を守るために、いつでも闘う用意のあることを厳かに宣言してこの劇は終わった。

その時だった。

バタバタと喘ぐようなバイクの音がして、誰かが「教室」の建物の中に入ってきた。

「芝居を止めて！」
という金切り声があった。リーダーのひとりだった。皆、緊張してバイクの乗り手の方を見た。

M16を肩に背負った兵士が、バイクを止めて「教室」の中を覗き込んでいた。

皆がゴクリと息を飲むのがわかった。

この施設の責任者の神父が表に出て行ってその兵士に語りかけている。

リーダーのひとりだが、緊張をほぐすように屈託のない声で、

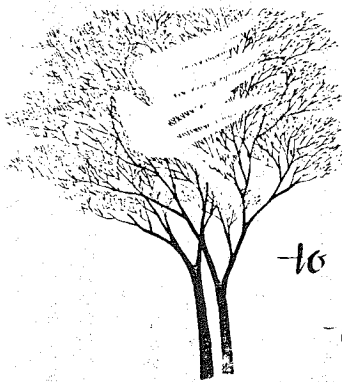
「さあ、みんなで歌をうたおう！」

と呼びかける。「教室」の中は、たちまち流行歌の大合唱になった。

「あの兵隊は、この裏の家の息子でね。休暇で里帰りしたらしい。」

神父が汗を拭きながら戻ってきた。

happy
are those
who dream
and are
willing
to pay the price
to make
their dreams
come true



多分、大丈夫ということになってホッと緊張がゆるむ。だが、その夜の他の劇の発表は大事をとって中止することになった。

外国人のぼくには、彼らの緊張と心労がはたしてどれだけ深いものか、かならずしも理解できたとは思わないが、それから二日ほど、リーダーは外を見張ることをやめなかった。

この劇を演じたグループは、参加者たちの中でも、特に軍隊の暴虐行為の激しい地域から来ているひとびとだった。そして、登記証明をしていなかったために土地を追われる農民の話は、まさに彼らの土地で現実起きている問題だということだった。

もちろん、このラディカルな劇はそのままひとびとの前で演ずることはできない。しかし、(シナクロ)と全く同じスタイルで演じられるこの劇が、いつかの感謝祭の日、どこかの教会で、さり気なく演じられる可能性はきわめて大きい。

その時、この劇は確実に、計り知れぬ力をもつてひとびとの心を解き放つかもしれない。'バゴ・クリスト'は、フィリピンのひとびとの中をすでに歩き回っているのだから。

編集後記

二月十七日(日)日比谷公会堂で行なわれた「はたらく者の音楽祭」(日音協主催)で「工場」とも「しび」が上演されました。韓国の東一紡績の女子労働者たちのたたかいをえがいたミュージカルで、これは「水牛新聞」第5号に脚本が掲載されています。

雑誌と呼ぶにはささやかな「水牛通信」ですが、おかげさまで第1号は残部わずかととなりました。読みやすくなったとの声も耳にしますが、いかがでしょうか。(J)

2号の訂正。3ページ下段4行目「二回ほどで完成した」は「二日ほど」の誤りです。「嗚呼皇室典範御夜継合戦」は大阪の現代社会・文化研究所の人たちによって実際に上演されたものです。年に一度開催されるその祭りでは天皇の寸劇が恒例になっています。雑誌はふつう取次店を通して書店にならびますが、それをしない「水牛通信」には別の方法が必要です。あなたの回りに読者をひろげてください。「水牛」を売ってみよう!という人を探しています。5部以上送る場合には送料を編集部で負担、10部以上だと10部に付き1部さしあげます。連絡を下さい。(M)

購読の御案内

※本誌は書店にはおきません。毎号確実に入手されるためには編集部あて予約購読の申し込みをしてください。発刊と同時に直送します。

※申し込みと送金は郵便振替(口座名 水牛編集委員会、口座番号東京四一九一七九二)または現金書留でお願いします。住所、氏名、電話番号、何号からということを明記してください。

※購読料は送料とも一年分三〇〇〇円半年分一八〇〇円です。

水牛通信 第二巻第三号

一九八〇年三月十日発行
定価 二〇〇円

発行人 堀田正彦

発行所 水牛編集委員会

〒154東京都世田谷区新町2-15-3

八巻方

電話〇三(四二五)九六五八

振替口座東京四一九一七九二

印刷所 ㈱トライプリントショップ